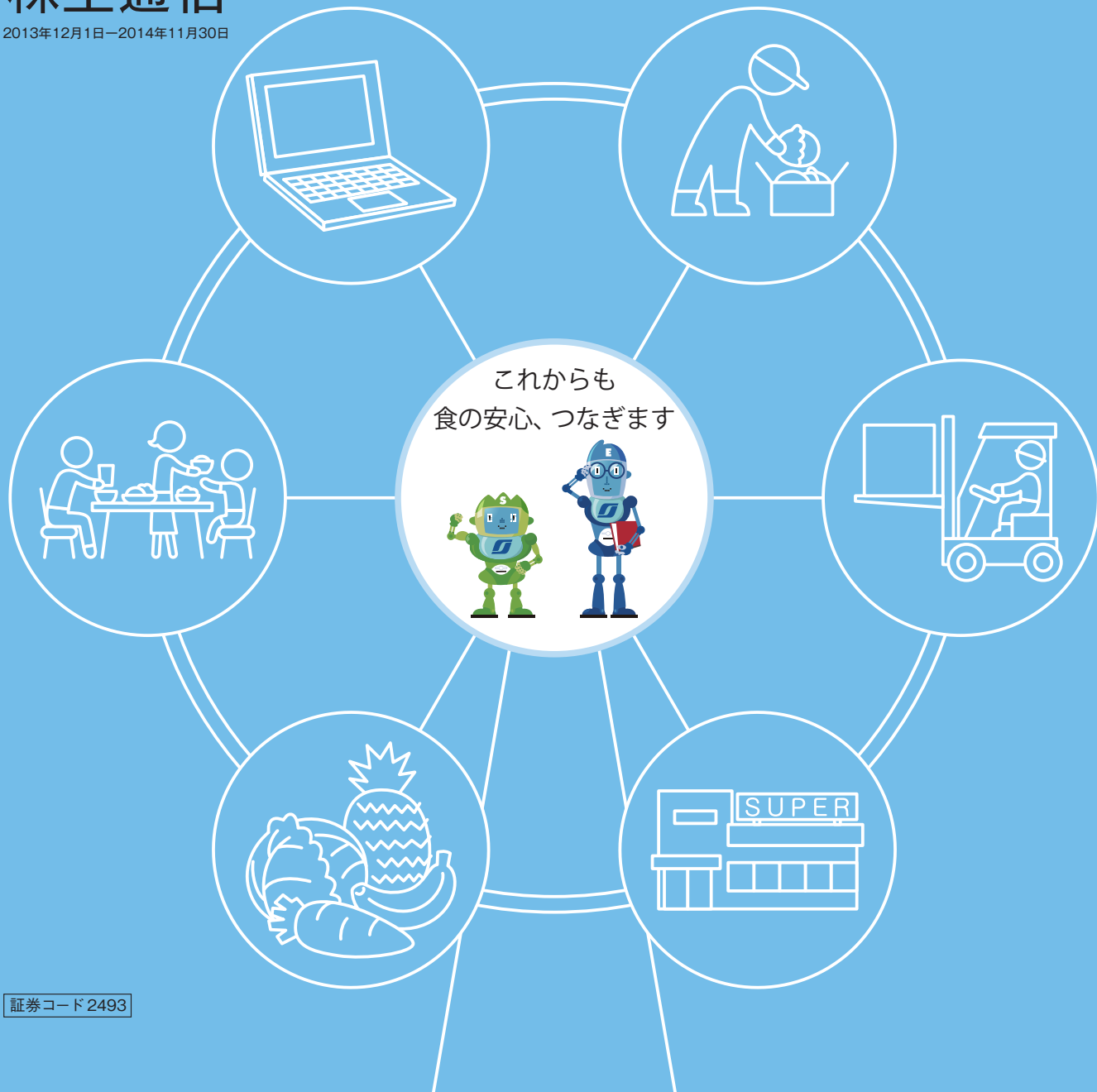


第17期

 イーサポートリンク株式会社

# 株主通信

2013年12月1日-2014年11月30日



証券コード 2493

# 社長 インタビュー



## 既存事業分野の拡大、 基幹システムの再構築、研究開発の推進

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第17期「株主通信」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

代表取締役社長 堀内 信介

### 2014年11月期の決算の総括をお聞かせください。

2014年11月期においては、売上高は44億37百万円、営業利益は6億90百万円、経常利益は6億93百万円、当期純利益については3億34百万円となり、経常利益ベースで、過去最高益を達成いたしました。

当社を取り巻く環境ですが、生鮮青果物流通業界は、小売業における食料品販売額はほぼ前年並みとなりましたが、主要クライアント企業のメイン商材であるバナナは、円安進行の状況の中、輸入量は前年をやや下回りました。このような状況のもと、当社は、戦略性を高める組織改革を行い、営業機能の集約による効率的な営業活動を実施するとともに、基幹システムをイーサポートリンクシステムVer.2としての再構築、生鮮MDシステムの導入拡大、研究開発活動に努めてまいりました。

売上増は、生鮮MDシステムの導入拡大に伴い、データ件数が増加したことが主な要因です。損益面においては、中間

流通業者向けに開発した商物流管理システムに係る減損処理およびソフトウェア資産の除却等を行っています。しかしながら、イーサポートリンクシステムVer.2のサービス開始時期やシステムに係る投資計画の変更などから、当初見込んでいましたソフトウェア償却費、リース資産償却費、支払手数料などの費用が発生しなかったことと、徹底した費用抑制などの努力を行ったことにより増益となりました。

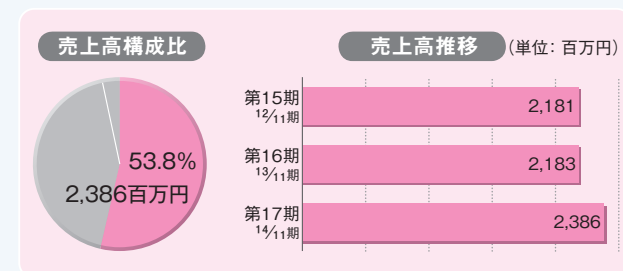
### セグメント別に詳しくご説明をお願いします。 まず、システム事業はどのような状況でしょうか。

システム事業においては、大きく2つのシステムがございます。輸入青果物サプライチェーンを構成する主要クライアント企業にご利用いただいている基幹システムのイーサポートリンクシステムと、大手小売・スーパーとその納入先にご利用いただいている生鮮MDシステムです。イーサポートリンクシステムにおいては、現行システムの安定運用の継続と、

システムの再構築を進めてまいりました。再構築したイーサポートリンクシステムVer.2は、まずは現行システムをご利用いただいている皆さんの安定稼働を先決と考え、準備を進めております。

次に、生鮮MDシステムは、2014年11月期においては導入企業数と取り扱い部門が拡大し、データ件数が順調に推移いたしました。また、同システムは、2013年のITサービスマネジメント「ISO20000」の取得に続き、2014年12月には情報セキュリティマネジメントシステムの国際認証規格である「ISO27001」も取得いたしました。これを機に、さらなる社内の情報セキュリティの維持、継続的な改善を意識し、引き続きお客様に対するサービスと信頼性の向上に努めてまいります。また、今後は、顧客数とデータ件数の増加に伴い、新たな設備増強が必要になってまいります。さらなる拡大にむけた先行投資としてしっかりと取り組んでいきます。

以上の結果、システム事業の売上高は23億86百万円、営業利益は11億11百万円となりました。



### イーサポートリンクシステムを再構築するということですが、どのような経緯があったのでしょうか。

現行のイーサポートリンクシステムは、大型汎用機をベ-

スとした専用回線を用いるシステムで、稼働開始から7年以上が経過しています。その間に行われた追加開発、改修などのプログラム本数が膨大となり、データベース構造が複雑化するなど、システムへの負荷が高まってまいりました。そのため、システム障害発生リスクや追加開発、保守管理コストの上昇が懸念されることから、再構築することにしました。

### 時代の変化にも対応できるシステムが求められますね。

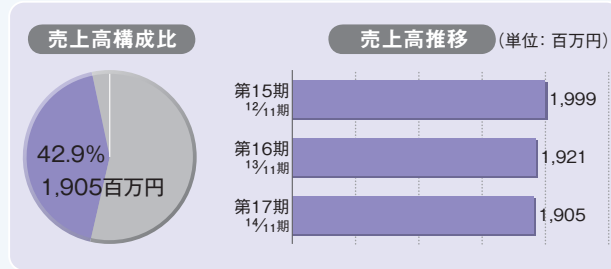
はい。システムにおける事業環境は大きく変化してきています。インターネット環境で稼働する柔軟性に富んだもの、スマートフォン、タブレット等のあらゆる情報端末との連携が図れるもの、また短時間かつ少ない費用で追加開発が可能であったり、システム運用の費用を低く抑えるなど、さまざまです。また、震災を受けまして、BCP（事業継続計画）の対策強化の必要性も高まっています。

我々は、常に時代やお客様の事業環境の変化に敏感に反応し、高度な要望にも応えられるよう、これからも絶えず進化し続けるシステムの提供を目指してまいります。

### 次に、業務受託事業はいかがでしょうか。

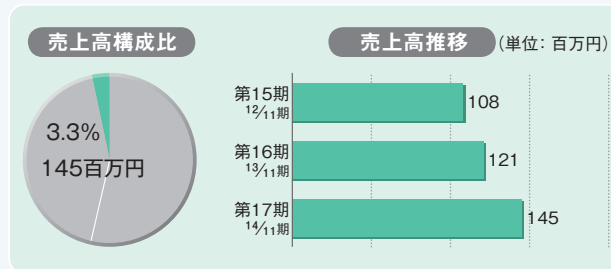
業務受託事業は、生鮮流通に携わるさまざまな業種の方々に、生鮮品の発注から入金処理までの業務を、お客様になり代わりシステムを使ってオペレーション業務を行う事業です。2014年11月期は、顧客の取り扱い商材の見直しや絞り込みがあったことで、業務受託量が減少いたしました。当社としては、さまざまな環境に鑑み、生産性の向上と業務の安定運用の継続に加え、業務の付加価値を高める取り組みを進めております。

業務受託事業の売上高は19億5百万円、営業利益は7億71百万円となりました。



農産物販売事業の状況を教えてください。

農産物販売事業は、子会社の(株)農業支援の事業で、りんごの受託販売を中心に展開しています。2014年11月期は、集荷数および販売数の拡大を図り、収益力の改善に努めてまいりましたが、平成25年度産のりんごが台風被害の影響で減産したことが響き、集荷数が計画未達となりました。今後も、安定的な集荷体制の確立と収益力の改善に取り組んでまいります。また、昨年度からの取り組みとして、りんご生果とりんごジュースの通販サイトを運営しています。産地から直接お届けする商品は、大変高い評価をいただいております。サイトへは、当社と農業支援のホームページからもアクセスでき



ますので、ぜひともご覧ください。(P.9に詳細掲載)

農産物販売事業の売上高は1億45百万円、営業損失は53百万円となりました。

事業を取り巻く環境が日々変化の中で、新たに取り組んでいることはありますか。

当社は、研究開発に積極的に取り組んでいます。まず、2013年9月からフィリピンで始めている普及・実証事業があります。これは、「平成24年度外務省委託事業の案件化調査」に「農産物流通IT導入事業」で応募し、採択されたことか



現地での当社スタッフによるシステムトレーニングの様子

ら、JICAの取り組みの一環として行っているものです。現在は、フィリピンの農協や生産者の皆さんに実際に当社のシステムをお使いいただき、農産物流通の効率化を目指し実証事業を進めています。2014年秋には、当社の企画で、同国政府関係者などを日本に招いて、当社のサービスを導入している企業の視察を行いました。我々が今まで培ってきたノウハウを今後どのように海外に展開していけるか、引き続き検討してまいります。

もう一つ、農産物生産者の皆さんが栽培履歴を管理できるシステム「農場物語」を活用した取り組みがあります。この



写真はイメージです

システムは、農産物の栽培計画段階で使用される農薬のチェックができるので、農薬の誤使用を未然に防ぎ、農薬の使用リスクを最小限に抑えることができます。これをスマートフォンやタブレット向けのサービスとして広く提供することを考えています。これまでのように栽培履歴の記録を机上のパソコンで行うのではなく、実際に農作業している現場に持ちこんで、すぐにその場で記録することを可能にします。さらには、音声入力機能を搭載するなど農作業の手を煩わせずに利用でき、誰にでも簡単に使える方法を組み込んでいます。農産物生産者の皆さんの要望に応えられるよう、開発を進めています。(P.7に展示会出展時の内容を掲載)

今期、2015年11月期の業績見通しはどうでしょうか。

今後の我が国の経済は、円安進行に伴う原材料価格やエネルギーコストの上昇、輸入物価の高騰などによる影響が懸念されるなど、先行き不透明なまま推移するものと予想されます。当社としては、新たなシステムのサービス開始による償却費の負担やその他サービスに係る先行投資を計画しておりますが、全社的なコスト抑制に努め、収益を確保していく考えです。また、既存事業分野における生産性の向上、新規顧客の獲得、将来にわたる持続的成長に向けた研究開発を進め

るなど、今後を見据え、事業規模拡大に向けた取り組みを強化していく所存です。

これらのことから、売上高は46億47百万円、営業利益は4億48百万円、経常利益は4億35百万円、当期純利益は2億50百万円を見込んでおります。目標に向かい、全社一丸となって取り組んでまいります。

最後に、今後の株主優待制度と配当についての考えをお聞かせください。

当社は、株主への利益還元を重要な経営課題の一つとして位置付け、経営体質の強化と将来の事業展開に必要な内部留保を確保しつつ、安定的な配当を継続的に実施することを基本方針としております。しかしながら、現在のところ利益剰余金がマイナスとなっているため配当が実施できない状況ですが、業績回復に伴ってようやく利益剰余金のマイナス解消も視野に入ってきました。株主の皆様は早期に配当できるよう、業績向上に努めてまいります。

株主優待制度につきましては、大変ご好評をいただいております。今期も同じ内容で実施してまいります。また、優待品の商品については、通信販売でもお買い求めいただくことが可能となりましたので、株主の皆様はもとより、多くの方に広く味わっていただくことができるようになりました。ご家庭用に加え、ギフト用としてもご利用でき、大変ご好評をいただいておりますので、ぜひ、ご活用いただければと思います。(P.9に詳細掲載)

今期は、既存事業分野の拡大と新規顧客の獲得、研究開発活動の強化などに努め、着実な成長を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

# 連結財務諸表

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	第17期 (当期)	第16期 (前期)
	2014年11月30日現在	2013年11月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	3,203	3,154
固定資産	2,005	1,836
有形固定資産	378	434
無形固定資産	1,279	1,076
投資その他の資産	347	325
繰延資産	3	5
<b>資産合計</b>	<b>5,211</b>	<b>4,996</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	1,217	1,121
固定負債	934	1,094
<b>負債合計</b>	<b>2,151</b>	<b>2,215</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	3,112	2,778
資本金	2,721	2,721
資本剰余金	620	620
利益剰余金	△229	△563
その他の包括利益累計額	△52	2
<b>純資産合計</b>	<b>3,059</b>	<b>2,780</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>5,211</b>	<b>4,996</b>

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	第17期 (当期)	第16期 (前期)
	自2013年12月1日 至2014年11月30日	自2012年12月1日 至2013年11月30日
売上高	4,437	4,225
売上原価	1,887	2,382
売上総利益	2,550	1,842
販売費及び一般管理費	1,860	1,316
<b>営業利益</b>	<b>690</b>	<b>526</b>
営業外収益	20	14
営業外費用	17	23
<b>経常利益</b>	<b>693</b>	<b>517</b>
特別利益	0	0
特別損失	122	16
税金等調整前当期純利益	570	500
法人税、住民税及び事業税	269	113
法人税等調整額	△33	70
<b>当期純利益</b>	<b>334</b>	<b>316</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第17期 (当期)	第16期 (前期)
	自2013年12月1日 至2014年11月30日	自2012年12月1日 至2013年11月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	587	809
投資活動によるキャッシュ・フロー	△384	△346
財務活動によるキャッシュ・フロー	△317	△7
現金及び現金同等物の増減額	△114	455
現金及び現金同等物の期首残高	2,625	2,169
現金及び現金同等物の期末残高	2,511	2,625

## 連結包括利益計算書(自2013年12月1日 至2014年11月30日)

(単位:百万円)

科目	第17期 (当期)	第16期 (前期)
	自2013年12月1日 至2014年11月30日	自2012年12月1日 至2013年11月30日
少数株主損益調整前当期純利益	334	316
その他有価証券評価差額金	3	1
その他の包括利益合計	3	1
包括利益	337	317
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	337	317

## 連結株主資本等変動計算書(自2013年12月1日 至2014年11月30日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計	
2013年11月30日残高	2,721	620	△563	-	2,778	2	-	2	2,780
連結会計年度中の変動額									
当期純利益			334		334				334
自己株式取得				△0	△0				△0
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						3	△58	△55	△55
連結会計年度中の変動額合計	-	-	334	△0	334	3	△58	△55	279
2014年11月30日残高	2,721	620	△229	△0	3,112	5	△58	△52	3,059

## 財政状態に関する分析

### 資産の部

当連結会計年度末における資産の残高は、前連結会計年度末と比べて2億15百万円増加し、52億11百万円(前連結会計年度末比4.3%増)となりました。内訳としては、流動資産が32億3百万円(同1.6%増)、固定資産が20億5百万円(同9.2%増)、繰延資産が3百万円(同33.4%減)となりました。流動資産の主な増加要因は、売掛金が1億47百万円増加したことによるものです。固定資産の主な増加要因は、ソフトウェア仮勘定が2億30百万円増加したことによるものです。

### 負債の部

当連結会計年度末における負債の残高は、前連結会計年度末と比べて63百万円減少し、21億51百万円(同2.9%減)となりました。内訳としては、流動負債が12億17百万円(同8.5%増)、固定負債が9億

34百万円(同14.6%減)となりました。流動負債の主な増加要因は、未払法人税等が1億1百万円増加、1年内償還予定の社債が50百万円減少したことによるものです。固定負債の主な減少要因は、長期借入金が1億19百万円、リース債務が63百万円減少したことによるものです。

### 純資産の部

当連結会計年度末における純資産の残高は、前連結会計年度末と比べて2億79百万円増加し、30億59百万円(同10.1%増)となりました。

この結果、自己資本比率は58.7%となりました。その主な増加要因は、当期純利益を3億34百万円計上したことによるものです。

## キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、税金等調整前当期純利益の計上、減価償却費の計上等ありましたが、法人税等の支払、無形固定資産の取得による支出等により、前連結会計年度末に比して1億14百万円減少し、25億11百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は5億87百万円(前年同期は8億9百万円の収入)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益を5億70百万円計上、減価償却費を1億35百万円計上したこと、売上債権の増加額を1億49百万円、法人税等の支払額を1億68百万円計上したこと等によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は3億84百万円(前年同期は3億46百万円の支出)となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出3億91百万円等によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は3億17百万円(前年同期は7百万円の支出)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出1億47百万円、社債の償還による支出1億10百万円等によるものであります。

## IR活動報告

当社は、経営の透明性を高めるため、情報開示をはじめ投資家向け説明会を定期的に行っています。

■ 2014年7月23日 (水)

機関投資家向け「2014年11月期第2四半期決算説明会」を開催

■ 2015年1月28日 (水)

機関投資家向け「2014年11月期決算説明会」を開催

説明会資料は、ホームページ～「株主・投資家情報」の「IRライブラリー」に掲載していますので、ご覧ください。

## 展示会出展報告

■ 2014年10月15日 (水)～17日 (金)

『第1回国際次世代農業EXPO』に出展

『国際次世代農業EXPO』は、農業で日本最大級の商談展です。  
(於：幕張メッセ/主催：リードエグジビションジャパン株式会社)

当社は、「IT農業ゾーン」において、農産物生産者の皆さんが栽培履歴を管理できるシステム「農場物語」を中心に紹介しました。現在、研究開発の一環として、「農場物語」のスマートフォン版の開発を進めており、その新たな機能をご案内しています。

### 農場物語スマートフォン版

従来システムと同様に栽培履歴の作成や農薬のチェックができるほか、スマートフォンの特性を活かした音声や画像認識機能を備えています。手軽に利用できるシステムで、生産者の方々の作業負担を軽減します。

スタッフによる実演においては、来場者の皆さんから大変好評をいただきました。当社は、このような機会を活かし、皆さんの声を事業活動に採り入れながら、さまざまなサービスの向上に努めてまいります。



当社のスタッフが実際に操作している様子（農薬のチェック中）

■ 2014年11月12日 (水)～14日 (金)

『アグロ・イノベーション2014』に出展

農業生産と青果物流通技術の専門展示会である『アグロ・イノベーション2014』に出展しました。  
(於：東京ビッグサイト/主催：一般社団法人日本能率協会)

当社は、農産物生産者の方々に提供する「農場物語」（前ページ『国際次世代農業EXPO』出展と同様）と、中間流通業に携わる方々の業務プロセスを重視した在庫・商物流管理システム「S ii MDシステム」、2つのシステムを中心に紹介しました。

昨年に続いての出展となり、システムやサービスをより身近に感じていただけるよう、実際にシステムに触れていただけるスペースを拡充しました。

開催期間中、当社ブースには、多数の方に会場いただき、盛況のうちに終了することができました。今後もこういった機会を活用し、より多くの方々に当社のサービスを知っていただき、皆様のご意見を採り入れながら、事業活動を上げていきたいと考えています。

展示会出展の様子は、ホームページ～「ニュース&トピックス」にも掲載しています。



当社展示ブースの様子



ブースへの来場者には、スマートフォンやタブレットを用いて実演



1日数回に分けてプレゼンテーションを実施



当社のスタッフによるサービス説明

子会社：(株)農業支援の取り組み

— りんご事業を中心に事業を展開しています —

# りんごとりんごジュースの通販サイトのご案内

“HAPPY HAPPY SHOP”  
(はっぴー はっぴょ しょっぷ)

株主優待品としてご好評の青森県産「りんご生果」と「りんごジュース」が、通信販売で手軽にご購入いただけます。

通販サイトはこちらからご覧いただけます

- ・ **はっぴーはっぴょ** で検索。
- ・ イーサポートリンク／農業支援のホームページにもバナーを貼り付けています。



りんごの通販サイト  
“HAPPY HAPPY SHOP”



産地からお手元に、直接お届けします。ぜひ、ご賞味ください！

お電話でもご注文を承ります！

フリーコール **0800-888-1565**

(受付時間：月～金曜日 10:00～17:00 祝日を除く)

葉とらずりんごストレートジュース (1000ml)

■ 販売価格 3本セット 2,465円 (税込2,662円)  
6本セット 4,369円 (税込4,719円)

■ 全国送料無料 (沖縄、一部離島除く)

※お支払い方法により、手数料等がかかる場合がございます。詳しくはお問い合わせください。

りんご生果は、季節商材ため、美味しく提供できる期間が限られています。

〔販売期間：9月中旬～3月下旬 (在庫状況によります)  
品種によっても異なりますので、サイトをご覧ください。〕

りんごジュースは、一年を通して販売しています。

ギフトとしても  
喜ばれています！



## 企業情報

(2014年11月30日現在)

### 会社概要

商号 イーサポートリンク株式会社  
(英字商号 E-SUPPORTLINK.Ltd.)  
本社所在地 東京都豊島区高田二丁目17番22号  
設立 1998年10月6日  
資本金 2,721百万円  
従業員 240名(連結) 234名(個別)

### 株式の状況

発行可能株式総数 10,700,000株  
発行済株式総数 4,424,800株  
株主総数 8,598名

### 役員

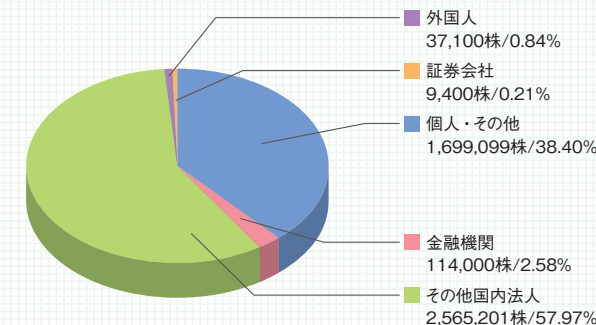
代表取締役社長 堀内 信介  
取締役 松丸 正明  
取締役 仲村 淳  
取締役 森田 和彦  
社外取締役 村井 勝  
社外取締役 下戸 章弘  
常勤監査役 伊藤 日出夫  
監査役 吉田 茂  
監査役 升田 和一

### 大株主一覧表

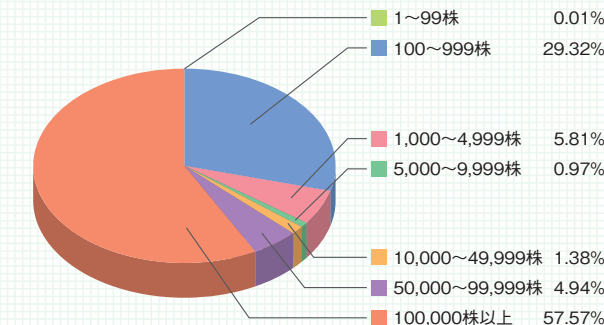
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
フレッシュMDホールディングス株式会社	1,336,200	30.19
株式会社ケーアイ・フレッシュアクセス	333,300	7.53
全日本ライン株式会社	195,600	4.42
ピー・エス・アセット・ホールディングス株式会社	188,300	4.25
株式会社上組	166,700	3.76
東洋埠頭株式会社	111,100	2.51
オリックス株式会社	111,100	2.51
株式会社フレッシュプロデュースドットコム	105,000	2.37
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	82,500	1.86
堀内達生	70,000	1.58

### 株式分布状況

■ 所有者別



■ 所有株式数別



## 株主メモ

事業年度	毎年12月1日～翌年11月30日
定時株主総会	毎年2月下旬
基準日	11月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先	お取引先の証券会社等になります	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
各種手続お取り扱い店(住所変更等)		みずほ証券株式会社 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取り扱いいたします*1  みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店*2

\*1：カスタマープラザではお取り扱いできませんのでご了承ください。

\*2：トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。

**公告方法** 電子公告(当社ホームページ)  
ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

### 住所変更手続きについて

当社株式関係書類及び株主優待等ご送付にあたり、お引越し等により住所が変更となられている場合、お手元に届かないことがございます。住所が変更となる際は、大変お手数ではございますが、なるべく早めに当社株式をお持ちの証券会社にて住所変更手続きをお願いいたします。

## ホームページのご案内

当社では、「株主通信」ではお伝えしきれない情報をホームページにて開示しています。株主・投資家の皆様に向けて、決算情報、決算説明資料、PR情報など、タイムリーな情報提供を心がけております。ぜひ、ご覧ください。

<http://www.e-supportlink.com/>

The screenshot shows the homepage of E-Support Link. At the top, there is a navigation bar with links for Home, Services, Company Info, News, Investor Relations, and Employment. Below this is a large banner with the text '生産者から生活者まで、想いを届ける 皆さまのベストパートナーを目指して!' and an illustration of a farm. The main content area is divided into several sections: 'ニュース&トピックス' (News & Topics) with a list of recent news items, 'IRニュース' (IR News) with a list of IR-related news, 'IRサービス案内' (IR Service Guide) with a list of services, and '農業支援' (Agriculture Support) with a list of support programs. There is also a 'バナナ物語' (Banana Story) section and a 'ご相談・お問い合わせ' (Consultation/Contact Us) section.

**イーサポートリンク株式会社**

〒171-0033 東京都豊島区高田二丁目17番22号  
TEL：03-5979-0666 FAX：03-5979-0667